

【解説】

能 夕顔

豊後国の僧(ワキ・ワキツレ)が、男山八幡宮に詣でる為の上洛中、五条の辺である家から、歌を吟ずる声聞こえてくる。やがて若い女(前シテ)が出て来たので、僧がここは何という所なのかと訊ねると、何某の院だと答える。さらに僧が何某の院の謂れについて訊ねると、女は源氏物語を引用した後、実は融の大臣の河原院の跡であると答える。そして女は夕顔の上が命を落とした所であると言い、源氏物語の夕顔の巻について語り、かき消す様に姿を隠す。(中入)

僧が月下に法華経を誦読していると、夕顔の上(後シテ)が現れ、昔を偲ぶ舞を舞う。そ

して夕顔の上は、回向により成仏できたと喜び、夜明けと共に雲に紛れて消え失せる。

狂言 名取川

修行を終えた僧が、希代坊と不肖坊という二つの名をもらう。物覚えの悪い僧は、着物の両袖に名を書き、忘れないよう名前に色々な節をつけて誦いながら帰国の途に就く。途中とある川を渡ろうとするも深みに嵌り、両袖の名前が消えてしまう。慌てて川から名を掬おうとしている所に、土地の者が通りかかる。川は名取川といい、土地の者は名取の何某だと教えられ、勘違いした僧が「名を返せ」と迫るも、何某が当惑して呟やいた言葉から名を思い出し、喜びの謡を謡う。

能 菊慈童

魏の文帝に遣える臣下(ワキ)が、酈縣山の麓に湧き出る薬の水を探せとの勅命を受けた。臣下が山に着くと、庵の中に異様の慈童(シテ)いる。臣下が不審に思い尋ねると、周の穆王に召し使われた慈童であると答える。臣下が七百年も昔の者が生きている事を怪しむと、慈童は穆王から賜ったという、二句の教えが書かれた枕を見せる。慈童は「この教えを菊の葉に置くと、菊の葉から露が滴り流れ、不老不死の霊薬となった。その霊薬を飲んだ為に、七百年も生きていられるのである」と語る。やがて慈童は薬を奏し、霊薬の水を汲んで飲み、次第に酔っていく。そして七百年の長寿を帝に捧げ、菊をかき分けて元の庵に帰るのである。

【注意事項】

- ・入場券のお申込みは、観世九阜会事務所ならびに当会能楽師が承ります。
- ・当日券は、当日正午より会場受付にて発売いたします。
- ・完売の際はご了承ください。
- ・お求め頂いたチケットの払戻しおよび指定席のお取替えはできません。
- ・未就学児の入場は原則的にお断りさせていただきます。
- ・本番組記載の演目・演者等はやむを得ない都合により変更になる場合がございます。
- ・許可のない録音、撮影は一切禁止です。携帯電話は電源からお切りください。演能やほかのお客様の迷惑となる行為はご遠慮願います。場合によっては退場していただく事もございますので御了承ください。

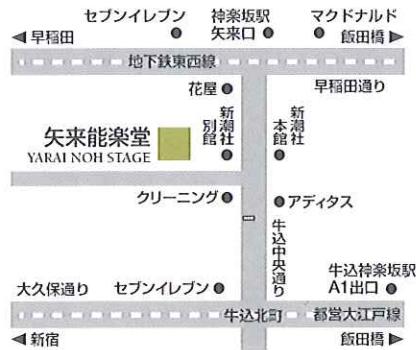
入場券料	正面自由席	5,000 円
	脇正面自由席	4,000 円
	指定席料	1,000 円
	(※指定席には別途上記自由席券も必要です)	
	学生券 (脇正面自由席のみ)	2,000 円

発売日9月12日(日)

一回券は、前月の定例会当日に矢来能楽堂受付にて発売いたします。
(お電話でのご予約は13日(月)から承ります)

お問い合わせは下記まで

162-0805 東京都新宿区矢来町60番地 社団法人 観世九阜会
TEL 03-3268-7311 FAX 03-5261-2980
yarai@eos.ocn.ne.jp



地下鉄東西線神楽坂駅下車 矢来口より徒歩2分
都営大江戸線半田神楽坂駅A1出口より徒歩5分
駐車場はございません。近隣のコイン駐車場をご利用ください。

能・狂言
Noh Kyogen
観世九阜会
かんぜきゅうこうかい
矢来能楽堂
162-0805 東京都新宿区矢来町60
<http://www.kanze.com/>

表紙写真「童子」／撮影丸大歩



能・狂言 観世九阜会

かんぜきゅうこうかい

十月 定例会

平成22年10月10日(日) 午後1時始(正午開場)
於 矢来能楽堂

Noh Kyogen
KANZE KYUKOKHAI
10 October 2010(sun) Yarai Noh Stage
13:00 start (12:00 open) English program available

平成二十二年十月十日(日) 午後一時始 於 矢来能楽堂
番組

能 夕顔

シテ 鈴木 啓吾

ワキ 工藤 和哉 大鼓 大倉慶乃助
ワキツレ 大日方 寛 小鼓 森澤 勇司 笛 一噌 庸二
ワキツレ 野口 能弘
間 深田 博治

後見 長沼 範夫 中森健之介 中森 貫太
五木田 三郎 桑田 貴志 弘田 裕一
地謡 小島 英明 長山 禮三郎
奥川 恒治 観世 喜正

休憩十五分

狂言 名取川

Natori-gawa

シテ 野村 万作 ア下 月崎 晴夫

野村 遼太
深田 博治
地謡 中村 修一
後見 岡 聡史

清 経

小島 英明

仕舞

玉 葛

観世 喜之

女郎花

坂 真太郎

休憩十分

(午後三時二十分頃)

能 菊慈童

Kikujiro

シテ 遠藤 六郎

ワキ 野口 敦弘 大鼓 安福 建雄 太鼓 小寺 佐七
ワキツレ 野口 能弘 小鼓 亀井 俊一 笛 藤田 貴寛
ワキツレ 野口 琢弘

後見 遠藤 喜久 中森健之介 古川 充
遠藤 和久 坂 真太郎 駒瀬 直也
地謡 長山 耕三 永島 忠修
佐久間 二郎 中所 宜夫

附祝言

(終演予定午後四時頃)

次回予定番組

平成二十二年十一月十三日(土)
十一月は第二王囃日の公演となります
午後一時始 於 矢来能楽堂

能 通小町 観世 喜之

能 巻 絹 長山 耕三

【好評発売中】
権藤芳一著

能楽手帖

新書判・三〇四ページ
定価一四七〇円(税込)

五流を通じて上演される機会の多い二三〇曲の、「登場人物」「面・装束」「演能時間」「曲の概要」を紹介。ルビを多用し、舞台写真も載せて、観能の手引きとなるように編んだ。

巻末に「能の歴史」「能舞台」「能の流派」「能の面」「能の扮装」「用語解説」を付した。

柳沢新治著

横から見た能・狂言

四六判・二二三ページ
定価二一〇〇円(税込)

長年、NHKの能楽放送に携わった著者が著した、放送うらばなし、歴史の中の能、出会いと別れと、能楽水先案内、新作 能・狂言・琵琶、推理小説「能舞台の目撃者」を一冊にまとめた好読み物。

〒101-0051 千代田区神田神保町三十一六

能楽書林

電話〇三(三三三六四)〇八四六
FAX〇三(三三三六四)〇八四七
Eメール shorin@mercury.plala.or.jp